

知床を世界自然遺産に推薦します

関係省庁連絡会議で正式に決定

昨年10月、環境省と林野庁は、国が世界自然遺産推薦書の提出を目指す地域として知床を選定しました。その後、「世界自然遺産候補地に関する検討会」で課題とされた陸域と海域を含めた統合的な管理計画について、地元の関係機関等からなる「知床世界遺産候補地地域連絡会議」において4回にわたり検討し、「知床世界自然遺産候補地管理計画（案）」としてとりまとめました。並行して、知床に係る保護制度所管官庁による関係審議会への報告を行い、1月16日に開催された世界遺産条約関係省庁連絡会議において、知床の推薦を政府として決定しました。今月下旬に、推薦書をユネスコ世界遺産センターへ提出する予定になっています。

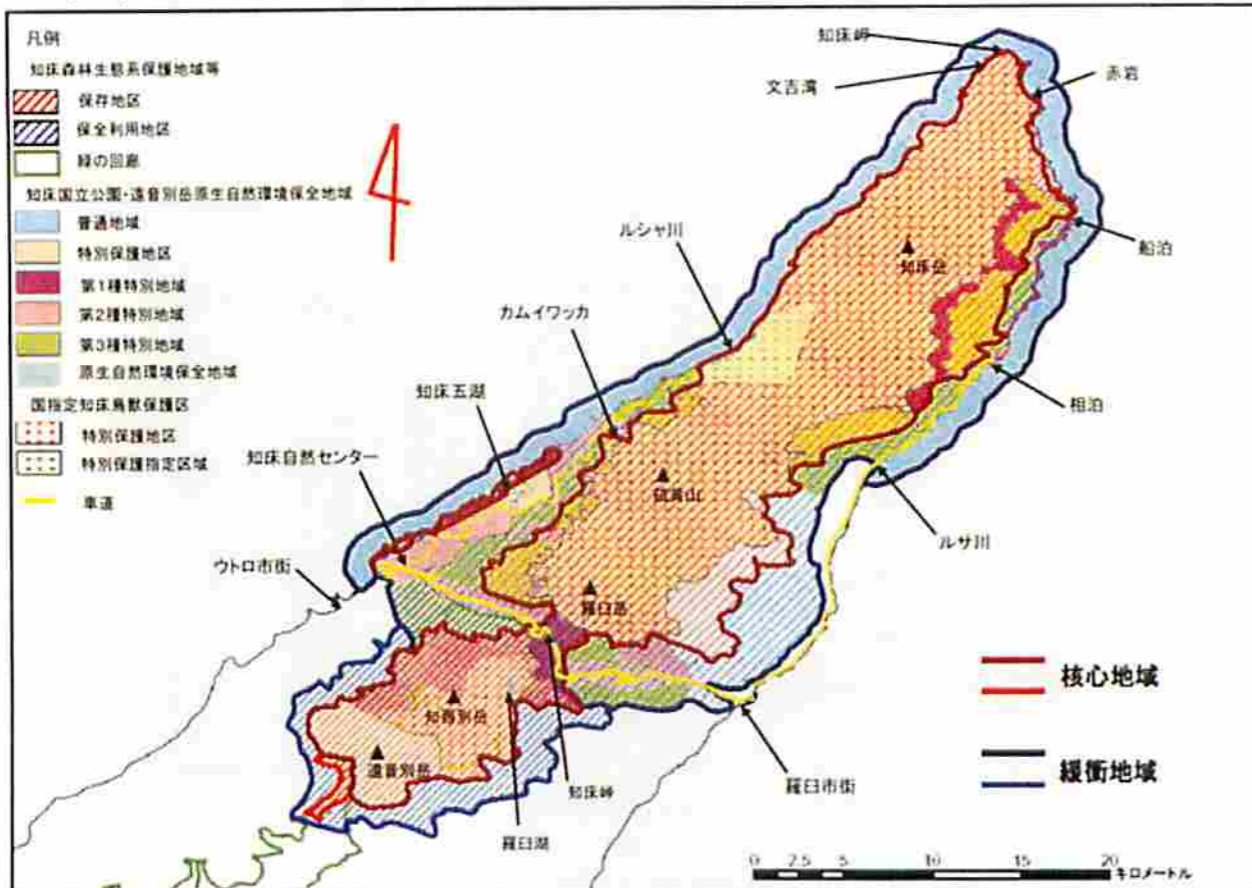
◎ 今後の予定

- ・平成16年春～秋 世界遺産委員会の諮問機関（IUCN）による書類審査及び現地調査
- ・平成17年6月 第29回世界遺産委員会（年次会合）において、推薦物件の審議を行い、知床の登録可否が決定

◎ 推薦物件の概要

- ・物件名：知床（Shiretoko）
- ・所在地：北海道斜里町及び羅臼町
- ・推薦区域：下図（知床世界自然遺産 推薦区域図）参照
- ・面積：56,100ha（核心地域34,000ha、緩衝地域22,100ha）
注）核心地域：原則として人手を加えずに自然の推移に委ねることを基本とする地域
緩衝地域：必要に応じて一定の行為を規制し、特に核心地域へ影響を及ぼす行為を厳正に規制する地域

知床世界自然遺産 推薦区域図



知床の森から

平成16年1月発行 第87号



北海道森林管理局北見分局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.shiretoko.knc.ne.jp/>



(写真：エゾクロテン)

知床は今

新年あけましておめでとうございます。

今年の干支は申ですが、知床には猿はいません。その代わりに、知床半島には、鯨目を除くと12科44種のは乳類が生息しており、これらのは乳類がほぼ自然本来の生活や種間関係を保った状態で生息していると推測されています。

昨年末から年頭にかけての知床は、比較的穏やかな天気であったため、流氷の到来は昨年並みの今月下旬と予想されています。昨年の場合、8日が流氷初日（陸地から肉眼で流氷を見ることができた最初の日）で、12日には町内の宇登呂港に接岸したので、その到来を待ちわびています。

知床が世界自然遺産の推薦地域として絞り込まれた際にも、流氷が育む豊かな海洋生態系と原始性の高い陸域生態系の相互関係に特徴があることがポイントになったと聞いています。

さて、センターでは、2月と3月に「歩くスキー」のイベントを行います。3月4日の『フレベの滝周辺の森を歩くスキーで散策』は、2月に入ると募集を開始します。冬の針広混交林の中を動物の痕跡を確認しながら歩いてみませんか。運がよければ、オオワシ、オジロワシ、エゾシカ、キタキツネなどに会えるかもしれません。応募をお待ちいたしております。



まもなく流氷が到来します

まもなく流氷が到来します。冬の針広混交林の中を動物の痕跡を確認しながら歩いてみませんか。運がよければ、オオワシ、オジロワシ、エゾシカ、キタキツネなどに会えるかもしれません。応募をお待ちいたしております。

今年もどうぞよろしく
お願いいたします。

第50回森とのふれあい

「冬休み親子木工体験」を開催

～小学生、おかあさんなど24名が参加～

第50回森とのふれあい「冬休み親子木工体験」を1月10日（土）に実施し、24名の親子の皆さんに参加していただきました。

工作はあらかじめ用意した小枝・小石・マツカサ・年輪プレート・落葉等の自然の素材を使った動物や昆虫、また落ち葉のステンドグラスなどを作りました。

参加者は、センター職員から材料や工作道具の取り扱い方や作り方などの説明を受けた後、さっそく材料を選び工作づくりにはいりました。

参加者の中には毎年参加している親子もあり、馴れた手つきですぐ工作に取り掛かっていました。また材料を見ながら何を作るか考えている親子もいましたが、それぞれ豊かな発想で工夫を凝らした作品を作り上げていました。

センター職員も作り方を説明したり、子供やおかあさんがもってくる小枝を斜めや輪に切るなど、いろいろとお手伝いをしました。

子供が工作づくりに夢中なのは勿論ですが、中には子供より夢中になる親の方も見受けられました。会場は、楽しそうな話し声や笑顔で終始なごやかな雰囲気に包まれました。

約2時間半の間、それぞれ工夫を凝らしながら悪戦苦闘した結果、マツカサのフクロウ、木の枝や丸木を使った昆虫、落ち葉のステンドグラスなどが出来上がりました。

思い思いの作品を親子で協力して作り、子供達は「冬休みの宿題ができた」と大事そうに作品を抱え、喜んで帰って行きました。



参加してくれた児童、園児の皆さん



いろいろな作品
ができました



『エゾシカ樹木食害調査』の結果まとまる

～防除対策を進めていきます～

当センターでは、平成9年より毎年知床の国有林内でエゾシカによる樹木食害調査を行っています。

樹木食害とはエゾシカが樹木の皮をはぎ取り食べてしまう被害で、樹皮を全周食べられると樹木が枯れてしまい、林業被害の拡大や森林生態系のバランスが崩れる可能性もあり深刻な問題となっています。

下表はイチイの食害推移をあらわしたものです。

平成8年から9年にかけて急激に食害が増え、その後は徐々に食害が増え続け、平成15年はイチイ全体（724本）の82%（593本）が食害を受け、そのうち枯死したイチイは33%（241本）となる結果となりました。

平成15年に、新たに食害を受けたイチイは36本、過去に食害を受け平成15年に更に食害が広がったイチイは33本となりました。

調査区はイチイ林木遺産資源保存林に指定されていることなどから、イチイを樹皮食害から保護するため、平成12年の秋に食害防除用の網を調査区内のイチイ約100本に巻き経過をみています。いまのところ、網巻きしたイチイはごく一部を除いて被害が拡大していません。

こうしたことから、今後、食害からイチイを保護するため、イチイに網を巻く本数を増やしていきたいと考えています。



食害の状況

イチイ食害発生推移(積算割合)

